

◎本市の状況

1 小・中学校の状況

(1) 児童生徒数と学校数の推移

本市における児童生徒数は、昭和60年度の12,777人をピークに、その後年々減少し、平成30年度は5,828人となっています。これは、ピーク時である昭和60年度の45.6%です。

○ 市立小・中学校の児童生徒及び学校数の推移（経緯）

	1985 (S60) 33 年前	1995 (H7) 23 年前	2005 (H17) 13 年前	2010 (H22) 8 年前	2015 (H27) 3 年前	2018 (H30) 現在
総人口	83,187	90,427	88,815	85,786	82,113	81,751
0～14 歳人口 人口比	19,496 23.4%	15,416 17.0%	12,040 13.6%	10,777 12.6%	9,475 11.5%	9,050 11.1%
小学校（児童数） 対 1985 年比	8,497 —	6,532 ▲ 23.1%	5,013 ▲ 41.0%	4,556 ▲ 46.4%	4,108 ▲ 51.7%	3,777 ▲ 55.5%
中学校（生徒数） 対 1985 年比	4,280 —	3,639 ▲ 15.0%	2,659 ▲ 37.9%	2,384 ▲ 44.3%	2,167 ▲ 49.4%	2,051 ▲ 52.1%
小中学校計 対 1985 年比	12,777 —	10,171 ▲ 20.4%	7,672 ▲ 40.0%	6,940 ▲ 45.7%	6,275 ▲ 50.9%	5,828 ▲ 54.4%

(2) 学校別の児童生徒数と学級数の推移

ここ10年間の学校別の児童生徒数は、すべての学校において減少しており、減少率で見ると最大で32.7%（太田東小）、中学校は最大で42.9%（見沼中）になっております。

また、学級数は、最大7学級減少しており、すべての学年でクラス替えができる学校も17校から13校に減っております。

○ 各小学校の児童数の推移(過去10年)

学校名	平成20年度 A	平成25年度	平成30年度 B	増減 B-A
	児童数(学級数)	児童数(学級数)	児童数(学級数)	児童数(学級数)
東小	438(15)	407(14)	382(12)	▲56(▲3)
西小	655(23)	533(18)	480(18)	▲175(▲5)
中央小	516(20)	438(15)	398(13)	▲118(▲7)
南小	382(16)	360(13)	299(12)	▲83(▲4)
北小	489(17)	453(16)	371(13)	▲118(▲4)
北河原小	47(4)	44(4)	32(3)	▲15(▲1)
荒木小	161(6)	158(6)	140(6)	▲21(±0)
須加小	72(6)	60(6)	54(5)	▲18(▲1)
埼玉小	304(13)	290(12)	271(12)	▲33(▲1)
星宮小	85(6)	70(6)	72(6)	▲13(±0)
太田西小	303(12)	271(11)	257(11)	▲46(▲1)
太田東小	110(6)	98(6)	74(6)	▲36(±0)
下忍小	99(6)	108(6)	89(6)	▲10(±0)
泉小	510(18)	477(17)	472(17)	▲38(▲1)
桜ヶ丘小	314(12)	281(12)	225(9)	▲89(▲3)
南河原小	239(11)	206(9)	161(6)	▲78(▲5)
合計	4,724(184)	4,254(171)	3,777(155)	▲930(▲29)

○ 各中学校の生徒数の推移(過去10年)

学校名	平成20年度 A	平成25年度	平成30年度 B	増減 B-A
	生徒数(学級数)	生徒数(学級数)	生徒数(学級数)	生徒数(学級数)
忍中	446(15)	440(14)	338(12)	▲108(▲3)
行田中	352(12)	258(9)	278(9)	▲74(▲3)
長野中	535(18)	495(15)	467(15)	▲68(▲3)
見沼中	210(8)	116(5)	120(5)	▲90(▲3)
埼玉中	168(6)	148(6)	148(6)	▲20(±0)
太田中	207(9)	185(7)	185(6)	▲22(▲3)
西中	471(16)	460(15)	403(13)	▲68(▲3)
南河原中	128(6)	133(6)	112(5)	▲16(▲1)
合計	2,517(90)	2,235(77)	2,051(71)	▲466(▲19)

(3) 児童生徒数の将来推計

人口減少と少子化の流れは、今後も進展する傾向にあり、児童生徒数の減少に伴う学校の小規模化がさらに進むと考えられます。

なお、平成30年5月1日現在の住民基本台帳に基づくと、2025年度の児童生徒数は、5,042人まで減少し、ピーク時の39.5%となることが予想されており、小学校では3,251人（平成30年度比で526人、13.9%の減少）となり、中学校では1,791人（平成30年度比で260人、12.7%の減少）となることが予想されています。

○ 市内小・中学校の児童生徒及び学校数の推移（見込み）

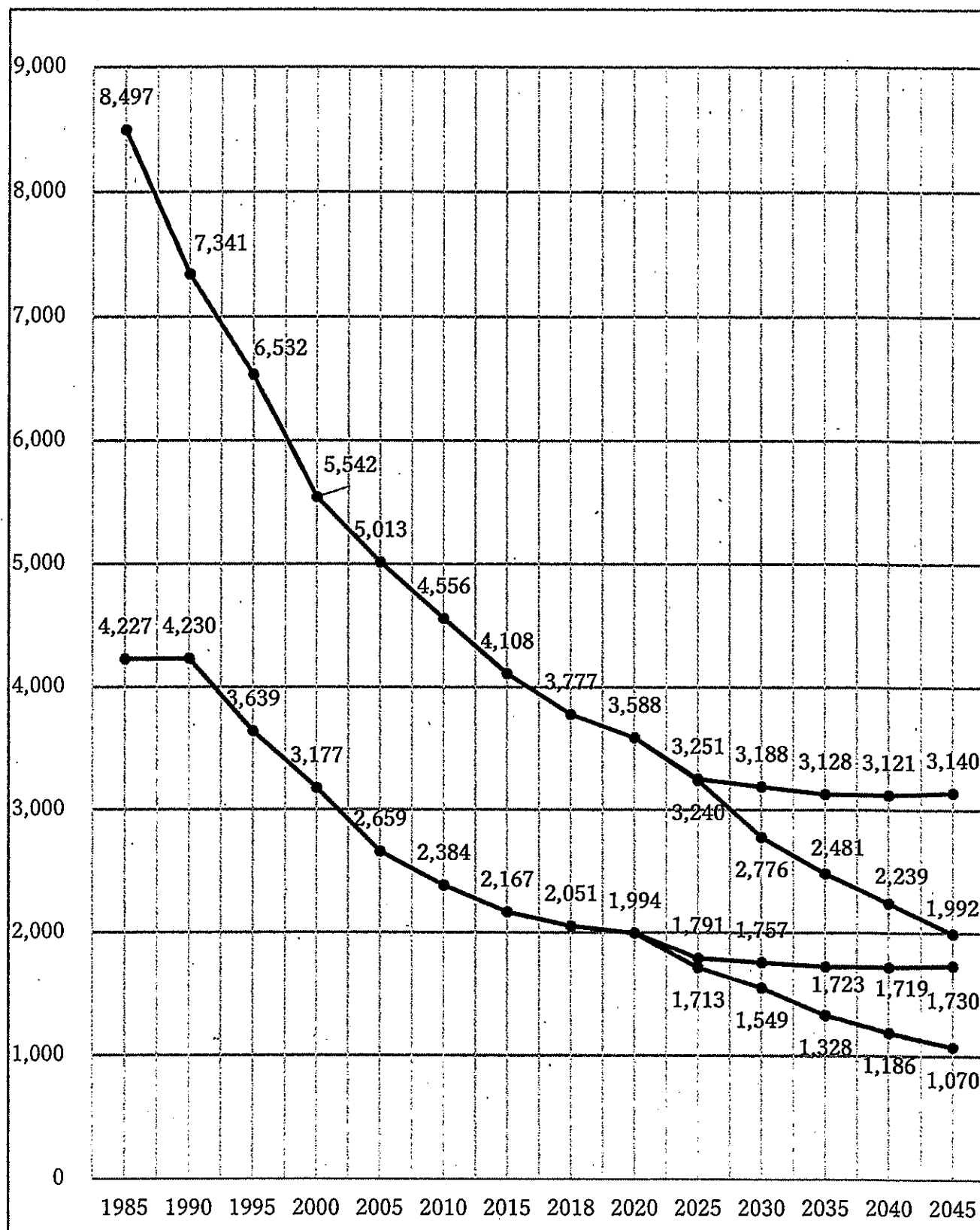
	2018 (H30) 現在	2020 (H32) 2年後	2025 (H37) 7年後	2030 (H42) 12年後	2035 (H47) 17年後	2040 (H52) 22年後	2045 (H57) 27年後
総人口	81,751	80,971	77,979	75,081	71,879	68,527	65,241
		77,978	73,376	68,393	63,109	57,653	52,349
0～14歳人口	9,050	8,880	8,313	8,152	7,998	7,979	8,028
人口比	11.0%	11.0%	10.7%	10.9%	11.1%	11.6%	12.3%
		8,238	7,187	6,355	5,605	5,015	4,465
		10.6%	9.8%	9.3%	8.9%	8.7%	8.5%
小学校（児童数）	3,777	3,588	3,251	3,188	3,128	3,121	3,140
対2018年比		▲ 5.0%	▲ 13.9%	▲ 15.6%	▲ 17.2%	▲ 17.4%	▲ 16.9%
			3,240	2,776	2,481	2,239	1,992
			▲ 14.2%	▲ 26.5%	▲ 34.3%	▲ 40.7%	▲ 47.3%
中学校（生徒数）	2,051	1,994	1,791	1,757	1,723	1,719	1,730
対2018年比		▲ 2.8%	▲ 12.7%	▲ 14.4%	▲ 16.0%	▲ 16.2%	▲ 15.7%
			1,713	1,549	1,328	1,186	1,070
			▲ 16.5%	▲ 24.5%	▲ 35.3%	▲ 42.2%	▲ 47.8%
小中学校計	5,828	5,582	5,042	4,945	4,851	4,840	4,870
対2018年比		▲ 4.2%	▲ 13.5%	▲ 15.2%	▲ 16.8%	▲ 17.0%	▲ 16.4%
			4,953	4,325	3,809	3,425	3,062
			▲ 15.0%	▲ 25.8%	▲ 34.6%	▲ 41.2%	▲ 47.5%

※ 上段：行田市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」（H27年12月策定）の目標値

下段：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（H30推計）」

※ 児童数・生徒数の推計は、2025年度までは住民基本台帳により現在の未就学児が入学する者の実数をもとに、長期的には0～14歳人口の増減率により算出。

児童生徒数の推移・予測



行田市立小・中学校学級数の推移（見込み）

	昭和60年度 1985年		平成30年度 2018年		平成32年度 2020年		平成37年度 2025年		平成47年度 2035年		平成57年度 2045年	
	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数	児童生徒数	学級数
東小	664	18	382	14	381	13	339	12	326	13	328	12
西小	1,209	30	480	18	483	17	466	17	448	17	450	17
中央小	933	23	398	14	385	13	351	12	338	12	339	12
南小	699	18	299	12	266	○ 11	269	○ 11	259	○ 11	260	○ 11
北小	844	21	371	13	323	12	289	12	278	12	280	12
北河原小	120	○ 6	32	● 3	25	● 3	25	● 3	25	● 3	25	● 3
荒木小	364	12	140	○ 6	133	○ 6	102	○ 6	98	○ 6	98	○ 6
須加小	189	○ 6	54	● 5	49	● 4	37	● 4	36	● 3	36	● 3
埼玉小	478	12	271	12	237	○ 10	207	○ 10	200	○ 10	200	○ 10
星宮小	177	○ 6	72	○ 6	66	○ 5	57	● 5	54	● 5	54	● 5
太田西	653	18	257	○ 11	243	○ 10	212	○ 10	204	○ 10	205	○ 10
太田東	242	○ 9	74	○ 6	66	○ 5	49	● 5	47	● 4	47	● 4
下忍小	134	○ 6	89	○ 6	92	○ 6	88	○ 6	84	○ 6	84	○ 6
泉小	834	22	472	17	473	15	439	15	422	15	424	15
桜ヶ丘小	560	15	225	○ 9	216	○ 8	190	○ 6	183	○ 6	184	○ 6
南河原小	397	12	161	○ 6	150	○ 6	131	○ 6	126	○ 6	126	○ 6
小学校計	8,497	234	3,777	158	3,588	144	3,251	140	3,128	139	3,140	138
忍中	625	16	338	12	296	○ 9	263	○ 9	253	○ 9	254	○ 9
行田中	643	16	278	○ 9	287	○ 9	287	○ 9	276	○ 9	278	○ 9
長野中	1,041	24	467	15	454	12	361	12	347	12	348	12
見沼中	317	○ 9	120	○ 5	112	○ 4	101	○ 3	98	○ 3	98	○ 3
埼玉中	261	○ 7	148	○ 6	151	○ 6	128	○ 6	123	○ 6	123	○ 6
太田中	438	12	185	○ 6	192	○ 6	154	○ 6	148	○ 6	149	○ 6
西中	733	17	403	13	409	14	428	14	411	14	413	14
南河原中	222	○ 6	112	○ 5	93	○ 3	69	○ 3	67	○ 3	67	○ 3
中学校計	4,280	107	2,051	71	1,994	63	1,791	62	1,723	62	1,730	62
小中学校合計	12,777	341	5,828	229	5,582	207	5,042	202	4,851	201	4,870	200

※●過小規模校 小学校5学級未満(北河原小:H18～、須加小:H26～、星宮小 H33:2,3年生 計15人、太田東小 H35:2,3年生 計15人)

○小規模校 小学校6～11学級、中学校3～11学級

2 小・中学校の規模

各小・中学校の学校規模を通常学級の学級数別に、それぞれ示したものです。平成30年度現在、小学校が3学級から18学級、中学校では5学級から15学級と、学校間で学級数に大きな開きが生じています。

なお、平成30年度現在、小学校2校に複式学級(※)が生じており、平成35年度には、4校となることが予想されます。

※ 複式学級：複数の学年を1つにした学級のこと。小学校の場合、2つ以上の学年を合わせても16人以下となる場合に複式学級を編制(ただし、1年生を含む時は8人以下)し、中学校の場合は、2つ以上の学年を合わせても8人以下となる場合に複式学級を編制する。

○ 各小学校の規模

学級数	平成30年度		平成35年度	
過小規模校 (5以下)	2校	北河原(3)、須加(5)	4校	北河原(3)、須加(4) 星宮・太田東(5)
小規模校 (6～11)	7校	荒木・星宮・太田東・下忍 南河原(6)、桜ヶ丘(9) 太田西(11)	7校	荒木・下忍・南河原(6) 桜ヶ丘(8) 埼玉・太田西(10)、南(11)
適正規模校 (12以上)	7校	南・埼玉(12)、北(13) 東・中央(14)、泉(17) 西(18)	5校	北(12)、東・中央(13) 泉(15)、西(17)

※ ()内の学級数は、特別支援学級を除く

※ 学級数は、1学級35人にて算定

○ 各中学校の規模

学級数	平成30年度		平成35年度	
小規模校 (3～11)	5校	見沼・南河原(5) 太田・埼玉(6)、行田(9)	6校	南河原(3)、見沼(4) 埼玉・太田(6) 忍・行田(9)
適正規模校 (12以上)	3校	忍(12)、西(13) 長野(15)	2校	長野(12)、西(14)

※ ()内の学級数は、特別支援学級を除く

※ 学級数は、1学級35人にて算定

3 学校の小規模化に伴う課題

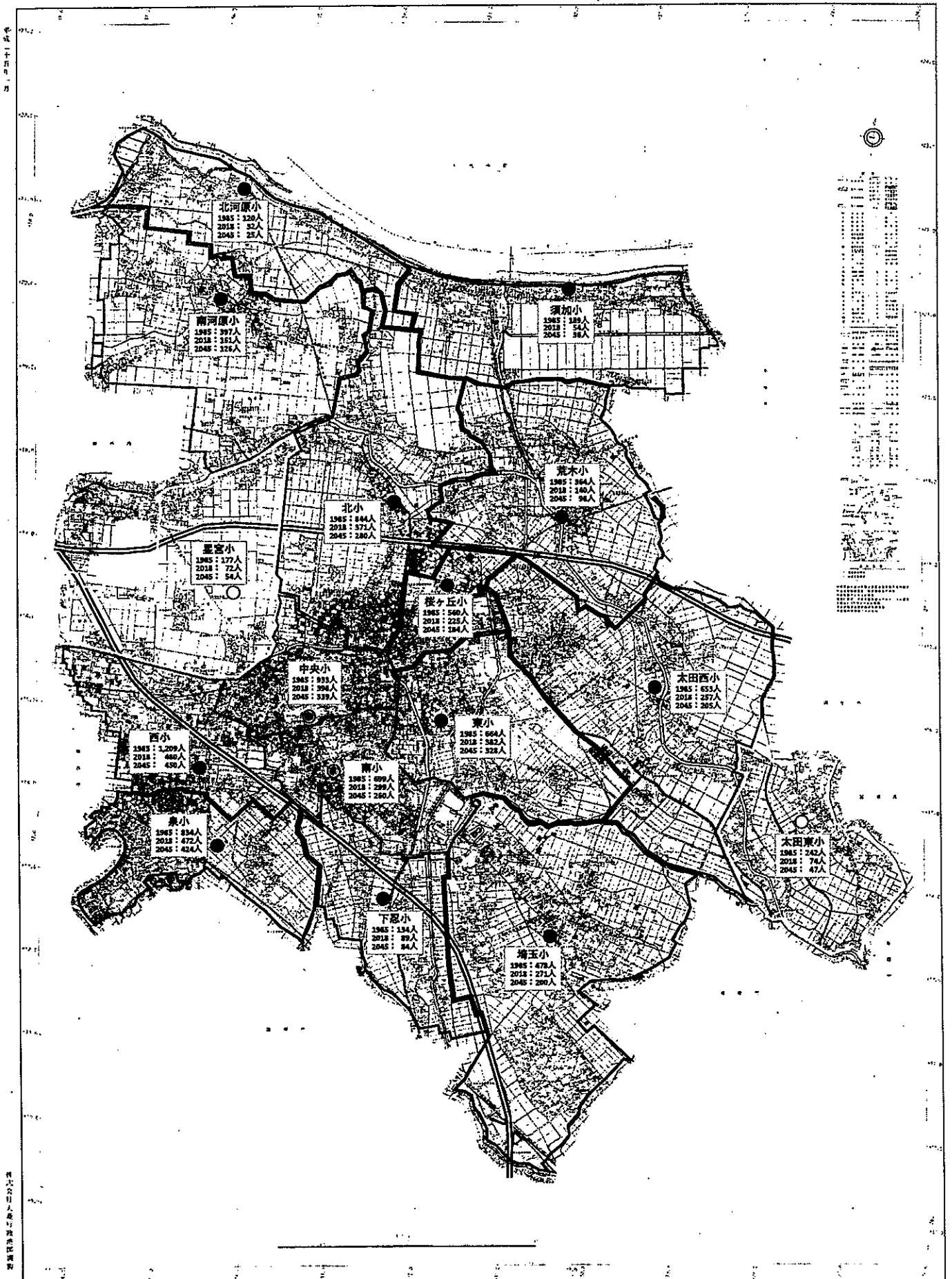
小・中学校の小規模化は、学校運営や教育活動に様々な影響を及ぼすとされています。具体的には児童生徒一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導が行えるというメリットがある反面、別表に示すように教職員の配置の課題、児童生徒数が少ないことによる学習や学校生活における影響が考えられます。

なお、複式学級では、直接指導と間接指導（子どもたちのみで学習を進めること）を組み合わせることが多いことから、教員に特別な指導技術が求められる、教員の指導準備における負担が大きい、実験・観察などの長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる等の課題が生じることも考えられます。

○ 学校の小規模化による課題

学校運営面	・ 経験、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置が困難である。 ・ 運動会や文化祭などの学校行事、体育の球技や音楽の合唱等の集団学習に制約が生じやすい。 ・ 班活動やグループ活動に制約が生じやすい。 ・ クラス同士が切磋琢磨する教育活動が困難である。 ・ 多様な指導方法をとることが困難である。 ・ 教職員1人当たりの校務分掌や行事に関わる分担が多くなる。 ・ 教職員が出張や年休等で不在となる場合の補充が困難である。 ・ クラブ活動や部活動の指導者の確保が困難である。 ・ P T A活動等での保護者の負担が大きくなりやすい。
児童生徒の学習・生活	・ 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい ・ 集団の中で自己主張することや他者とコミュニケーションをとる機会が少ない。 ・ 切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい。 ・ 多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れる学習の機会が少ない。 ・ 教科が得意な特定の児童生徒の考え方にクラス全体が引っ張られやすい。 ・ クラブ活動や部活動の種類が限定される。 ・ 1学級における男女比の偏りが生じやすい。 ・ 進学等の際に大きな集団である上級学校への対応に困難を来す可能性がある。 ・ 学習や進路選択の模範となる先輩の数が少ない。

行田市立小学校 通学区域



行田市立中学校 通学区域

